



## 学力向上につながる授業改善に向けて

～「今、求められている力」を子どもたちにつけるために～

### 1 学力調査の問題から出題の趣旨を知る

◎「全国学力・学習状況調査 解説資料」をぜひご活用ください。

<内容>

- 1 出題の趣旨  
出題の意図や把握しようとする力など
- 2 解説
  - ・学習指導要領における領域・内容
  - ・評価の観点                      ・解答類型
  - ・正答について                    ・誤答について
- 3 学習指導に当たって  
学習指導の充実・改善を図る際のポイント
- 4 出典等  
過去の関連問題について



小学校国語  
小学校算数



中学校国語  
中学校数学

※理科については、

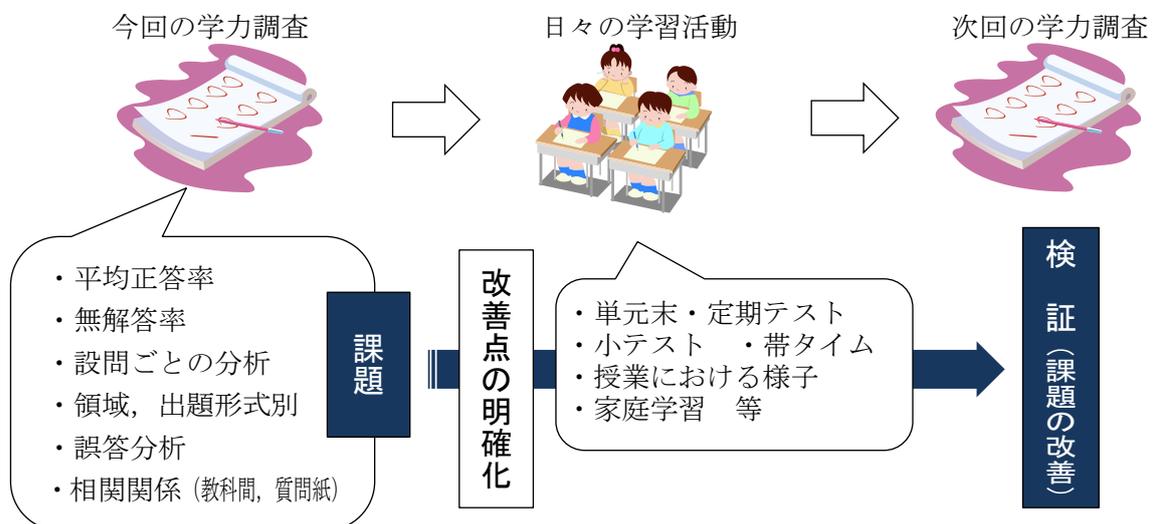
「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた理科の観察・実験に関する指導事例集」  
をご活用ください。

#### 💡 学力調査からは・・・

- ・自分の考えを書くこと
  - ・筋道立てて説明すること
  - など
- +
- ・比較すること
  - ・関連付けること
  - ・他者の考えの意図を読み取ること
  - など

こういった力が求められています。

### 2 分析をもとに課題を明確にし、改善に生かす







# 二つの詩を比べて読む

## 設問 3

※「グループでの交流の様子」は、次のページにあります。

【詩1】

(まじ・みちお「たんぼぼさん」  
よんだ)による。(1)



【詩2】

(まじ・みちお「たんぼぼさん」  
よんだ)による。(2)



※北川さんの原稿では、「まじ・みちおたんぼぼ」を題材にして書いた【詩1】と【詩2】を比べて読み、考えたことについてグループで分かち合う交流の様子にしました。この二つの詩を「グループでの交流の様子」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

### グループでの交流の様子

北川 まじ・みちおさんの二つの詩を読んで、考えたことをみんなで交流しよう。

まず、「詩1」について話し合おう。

竹内 この詩は、二つの連があって、第二連にはいろいろな動物が出てくるわね。

中西 そうね。「タンポポ」のことを、イヌは「ワンフォオ」「ウシは「ダイモ」モ」と表現しているところは、それぞれ動物たちの「ア」を

山田 「タンポポ」という言葉のひびきに重ねているようだね。

竹内 確かに、そうだね。でも、ナメタジの「ターター」という表現は、少しちがうよね。体のどくちうや動きを表しているのかな。

山田 そうか。ところで、「へ」は「タンポポ」のことを、どうして「タン」だったら、「タンニヨロ」と呼ぶかもしれないわ。

山田 次の「詩2」について考えてみよう。この詩は、三つの連があって、それぞれの連の中でくり返し使われている言葉があるね。

竹内 そうね。「あーら ひーら ぶーら しよ」という言葉は、第一連では「イ」呼び、第二連では「ウ」呼んでいるね。第三連では「エ」呼びかけていることが分かるわ。

北川 私にもあるように、ぼくは「たんぼぼさん」が呼んでいる声だと思ってる。

中西 題名にもあるように、ぼくは「たんぼぼさん」が呼んでいる声だと思ってる。

山田 私は、「たんぼぼさん」の呼びかけに対する「みんな」の返事の声だと思ってる。

北川 そうかな。ぼくは「たんぼぼさん」と「みんな」が会話をしている声だと思ってる。のほろ音に注目して音読すると、「たんぼぼさん」が「あーら ひーら ぶーら」とリズムに乗って呼びかけている感じがするんだ。それに対して、「みんな」が声をそろえて、「し」と返事をしているのではないかな。

山田 (中略)

北川 それでは、二つの詩を比べることにしよう。どちらの詩も、たんぼぼと周りの生き物と仲のよい様子が感じられるね。【詩1】は、「タンポポ」のことが好きだという動物たちの持ちが伝わってくるね。

山田 【詩2】は、「は」をかけていきましよう」という言葉から、同じように仲のよい様子が分かるね。

中西 (中略)

中西 この二つの詩以外にも、「たんぼぼ」を題材にした詩はあるのから、ほかの詩も調べみたいかな。調べてみよう。

全員 そうだね。調べてみよう。

※「連」：詩の中で、行を定めて分けてあるまじりのこと。

一 「グループでの交流の様子」では、「詩1」と「詩2」について、それぞれが考えたことを話します。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) **ア** の中に入る、最もふさわしいものを、1から3までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 鳴き声  
2 気持  
3 名前

三 あなたは、「詩1」と「詩2」を比べて読んで、どのようなことを考えましたか。次の条件に沿って書きましょう。

(条件)  
○ 詩の内容や表現の仕方などについて、共通点やちがう点を取り上げて書くこと。  
○ 「たんぼぼ」と「まじ・みちお」の両方の言葉を使って書くこと。  
○ 八十字以上、百字以内にとめて書くこと。

※左の原稿紙は書き用紙なので、使っても使わなくても大丈夫です。原稿紙は、原稿紙に書きましょう。●の印から書きましょう。どうもありがとうで締めましょう。続けて書きましょう。

2つの詩を比べて読み、共通点や相違点に着目して自分の考えを書く。

それぞれの連で繰り返されている言葉に着目し、どのような意味を表しているかを的確に捉える。

### 〈解説資料から〉

一編の詩だけでなく、同じ作者の作品や、同じ題材の作品を集めて、複数の詩を比べて読むことで、多様な表現の工夫に気付くことができるように指導することが大切である。

詩の解釈について交流し、自分の考えを広げ、深めていくためには、詩を読む目的を明確にして、感想、解説、推薦などの文章として考えをまとめ、発表し合う場面を設けることが考えられる。その際、互いに考えたことがどのように共通したり相違したりしているかを明らかにすることが大切である。

小学校算数

他者の考えを解釈し、それを基に説明する

設問①(2)



さとしさんの説明

$$\begin{aligned}
 37 \times 6 &= 37 \times (3 \times 2) \\
 &= (37 \times 3) \times 2 \\
 &= 111 \times 2 \\
 &= 222
 \end{aligned}$$



よし子さんの説明

37 × 6 の 6 は 3 × 2 と考えることができます。  
 すると、37 × 6 の積は 37 × 3 の 2 倍の大きさになります。  
 だから、積は 111 の 2 倍の 222 になります。

二人の説明から計算の工夫を捉え、それを基に他の計算の方法を考える。

(2) 次に、37 × 24 の積が 888 になることを説明します。  
 2 人の説明のどちらか一方をもとにして、37 × 24 の積が 888 になることを、式や言葉を使って書きましょう。

<解説資料から>

算数科の授業では、いろいろな考え方や解決方法を解釈することで、表現のよさに気付いたり、見方を変えて新しい解決方法を考えたりすることが大切である。

指導に当たっては、式に基づく説明と言葉に基づく説明を関連付け、式の意味を理解することが考えられる。その際、結合法則の説明から示された計算のきまりを読み取り、異なる数値の場合でも適用していくことが大切である。

日常生活の場面から規則性を読み取り、数学的に表現する

設問④(2)



けい子



まさる



音楽科の学習に関連付け、示されたリズムについて考察する

けい子さんとまさるさんは、同時に演奏を始めました。  
 すると、12小節目に2人の㊦のリズムが重なりました。  
 2人の㊦のリズムが重なる12小節目の「12」は、どのような数ですか。  
 言葉と「4」と「6」の数を使って書きましょう

[正答例] 12は、4と6の最小公倍数です。

<解説資料から>

日常生活の事象を算数の内容と関連付け、学習した用語を用いて的確に表現できるようにすることは、算数と日常生活との関わりについて興味・関心を高める上で大切である。

「12は、4小節を3回して、6小節を2回すると重なるところです」といった表現を、算数で学習した用語を基に洗練する場面を設け、最小公倍数などの用語を用いて表現し直すことが考えられる。このような活動を通して、算数の用語を用いると事象を簡潔に表現できるよさに気付くことが大切である。

読書についての標語を考える

設問 1

1 図書委員の早川さんは、昔にもと本を読んでもらうために、社会で取り組まれている「読書週間」の標語を参考に、読書週間を作っています。次は、「読書週間」の標語を整理した「早川さんのノート」です。これを読んで、あとに問に答えなさい。

「読書週間」の標語
■標語から伝わってくるメッセージと、表現の工夫とその効果について
(公益社団法人読書推進協議会「読書週間」の標語による)
(メッセージ) ↓ お礼に入門の一冊をもつことは人生を豊かにする。この機会に本をたくさん読んで好きな一冊を見つけてほしいというメッセージが伝わる。
(表現の工夫) ↓ 呼びかけの形で始めることで、読む人の関心を引いているところがよい。五七五のリズムも親しみがもてる。
(右に同じ)
(メッセージ) ↓ 秋はさわやかな季節なので、たまには快い風の中本を読み、リラックスタイムを過ごしてみようかというメッセージが伝わる。
(表現の工夫) ↓ 「本」と「旅する」という言葉のつなげ方を「文字変えて繰り返すこと」が使われ、秋が強調されている。
(右に同じ)
(メッセージ) ↓ 本と旅したり、本を旅したりするのはよいというメッセージが伝わる。
(表現の工夫) ↓ 「本」と「旅する」という言葉のつなげ方を「文字変えて繰り返すこと」が使われ、秋が強調されている。
(右に同じ)
○ 旅の途中で本を読むのは楽しいことだ。また、旅をしながらでも、本を読むのは未知の世界を知ることができるというメッセージが伝わる。

- 一 早川さんのノートの [ ] に入る言葉として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
1 反復法
2 対句法
3 擬人法
4 倒置法
二 早川さんは、「早川さんのノート」の [ ] 欄の内容が不十分であると感じたので、[ ] 欄のように直しました。早川さんが直すときに注意した点として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
1 標語の言葉をそのまま使うのではなく、標語に直接書かれていない作者の思いを想像して書く
2 標語の言葉をそのまま使うのではなく、標語の内容に関連する事例を様々な方法で調べ
3 標語の言葉をそのまま使うのではなく、この標語の使われている点や他の標語と比較して
4 標語の言葉をそのまま使うのではなく、これまでに自分が読んだ本の内容と結びつけて

文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつ

文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く

Answer grid for question 1. It consists of two columns of boxes for multiple choice and one large grid for writing an answer. The grid has 10 rows and 10 columns.

問題
三 早川さんは、次の二つの(問題) A、Bを作り出した。これらの(問題)について、あなたはどのように思いますか。A、Bから一つ選び、どちらの(問題)を選んでください。選んだ(問題)から伝わってくる(メッセージ)と(表現の工夫)とその効果についてのあなたの考えを、あとの条件1から条件3にしたがって書きなさい。
(問題)
A 心のアンテナ読書で伸ばそう
B その本が未来を示す案内図
条件1 (メッセージ)及び(表現の工夫)とその効果は、「早川さんのノート」を参考に、具体的に書くこと。
条件2 (メッセージ)は、「このメッセージが伝わる」に書くように書くこと。
条件3 (メッセージ)及び(表現の工夫)とその効果は、それぞれ四十文字以上、六十文字以内で書くこと。(文末の「このメッセージが伝わる」は字数に含まれない)
※ 次のページの枠は、下書きに使用してもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

〈解説資料から〉
様々な標語を読んだり、自分の思いや考えを標語の形で表現したりすることは、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるよう、簡潔に表現する能力を育成する上で有効である。社会の中で実際に使われている表現と自分たちの表現とを比較して考えることは、実生活に生きて働く国語の力を育成することにつながる。



# 落語を味わう（「目黒のさんま」）

## 設問 3



【落語「目黒のさんま」のあらすじ】  
ある秋の日、江戸に住む殿さまが、家来を連れて、郊外の目黒まで馬に乗って出掛けました。殿さまが空腹を感じた頃、そこから魚を焼くにお店が並んでいます。殿さまは、このよいにおい、「さんま」といって魚を焼くにお店に立ち寄り、さんまを食べてきました。

殿さまは、家来たちに「早進さんまを用意せよ」と言付けました。しかし、このあたりには魚も売っていないため、はやくは手に入りません。困った家来たちは、さんまを焼いていい魚家来話、おのつた焼きたてのさんまを譲って、うらないます。そのやりとりを聞いていた殿さまは、自らお願ひし、ようやく、生まれ初めて初めのさんまを召し上げます。お願ひのころへもってき、初めのおいしさ、殿さまは喜びました。

お願ひに返つてから、殿さまは目黒で食べたさんまの味が忘れられません。しかし、殿さまの食事に応じて食べるさんまをくくるはずなく、さんまへの思いは日に日に募る一方です。

ある日、殿さまは、親戚の家に出掛けました。すると、「何でもお好みのお料理をお申し付けなさい」とのことでした。殿さまは、待つたことをまかり、さんまが食べたい、とおっしゃいました。親戚の家来たちは、早速目黒の魚河岸にも上等なさんまを取り寄せて、しつこく、このように魚の多い魚を差し上げて、もしも休日にさかれば、大事と心なしたちは、十分に蒸して、小骨は毛抜きで抜いて、さんまの皮だけならみないものをこしらえました。

【注1】 目黒の魚河岸は、江戸目黒には有名な魚市場であり、新鮮な魚が揃っていた。  
【注2】 だが、江戸目黒には、さんまの産地はない。

※ 話は、このあとの「落語「目黒のさんま」の最後部分」(次のページ)に続きます。

一 線部①「なに、これがさんまですか」、線部②「いえ、さんまに相違ございませぬ」とありますが、この部分を落語で演じる場合、演者はそれぞれ、顔をどちらの方向に向けて話しますか。「落語を紹介する本の一部」を参考に、次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

1 ①上手 ②上手  
2 ①上手 ②下手  
3 ①下手 ②上手  
4 ①下手 ②下手

二 線部③「あつ、それはいかん、さんまは目黒にかぎる」とあつを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 おいしくないとさんまでも家来のためを思つておいしいふりをする  
2 目黒でおいしいさんまがとれることを知らない家来に比べ、賢い  
3 ずつと食べたさんまをやつと食べることができて、喜んで  
4 目黒がおいしいさんまのとれるところだと思ひ込んでいる、世間知らずな殿さまの姿。

三 線部「これがさんまか」とありますが、あなたならどのように演じますか。次の演じ方のA、Bから一つ選び、どちらの演じ方を選んでかまいません。なぜそのように演じるのか、あなたの考えを、あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間を書き加えたりしてもかまいません。

【演じ方】  
A 家来を責めるように演じる。  
B 家来に問いかけるように演じる。

条件1 このように言った殿さまの気持ちを想像して書くこと。なお、そのように想像した根拠を、「落語「目黒のさんま」のあらすじ」や「落語「目黒のさんま」の最後部分」から引用したり要約したりして示すこと。  
条件2 五十文字以上、八十文字以内で書くこと。

※ 次のページの枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙

【落語を紹介する本の一部】

落語は、一人の演者が、形つたまはれ何人もの登場人物を演じて物語を語る日本の伝統的な落語である。次の「落語「目黒のさんま」のあらすじ」(「落語「目黒のさんま」の最後部分」)を説き、あとの問いに答えよ。

【落語の構成】 次の三つの要素で構成されている。  
①「まくら」 本題に入る前の導入部分。本題に関係のある短い話をして聴く人を引き付ける。  
②「本題」 話の中心部分。「地」と呼ばれるナレーションを挟みながら、主に登場人物の会話で話を進める。  
③「落語」 話の最後の部分で、聞く人を笑わせたり納得させたりする。話がストンと落ちるように結末を述べるので「落」という。

【人物の演じ分け】 一人で演じるので、独特の工夫がある。客席から見て、舞台の右の方を上手、左の方を下手という。場面では顔を上手や下手に向けて、登場人物の士気関係を表す。顔の向き、言葉遣いや口調、仕草を覚えて、何人もの登場人物を表現する。

【相手立場が下なら下手に向かつて話す】

【上手】 【下手】

目的に応じて必要な情報を読み取る

「落語「目黒のさんま」の最後部分」(次のページ)に続きます。

落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く

### 〈解説資料から〉

古典落語は、現代においても広く親しまれている伝統芸能であり、噺を聞きながら当時の文化や生活を想像することができる。古典に親しませるとともに、我が国に長く伝わる言語文化について関心を広げたり高めたりするのに適した教材の一つである。本問では、「目黒のさんま」を取り上げ、文章の内容を的確に捉えた上で、資料から必要な情報を読み取って活用したり、落語の演じ方について根拠を明確にして自分の考えを書いたりすることを求めている。

事象を理想化・単純化し、問題解決の方法を数学的に説明する

設問 1(3)

(3) 図3のように、校舎に「一中文化祭」の横断幕を取りつけます。健太さんは、校門の位置に立って見たときに、図4のように横断幕が木にまったく隠れない高さで、最も低い位置に取りつけたいと思いました。そこで、図5のように、校門の位置に立っている健太さんと木と校舎を真横から見た図をかいて、木に隠れない横断幕の位置を考えることにしました。

横断幕が木にまったく隠れない最も低い位置を求める方法を言葉で説明しなさい。解答用紙の図を使って説明してもかまいません。

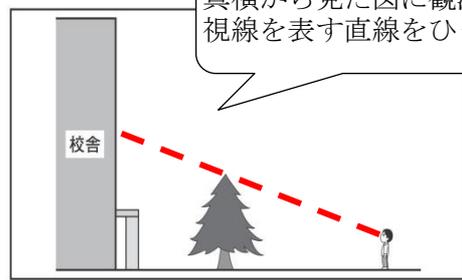
図3



図4



図5



【解答例】

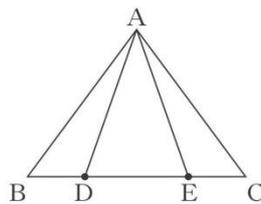
健太さんの目と木の先端の2点で決まる直線を引き、その直線と校舎を表す線分との交点を求め、その位置に横断幕の下端が一致するように取り付ければよい。

<解説資料から>

日常的な事象の問題について、数学を活用して解決できるようにするために、事象を理想化・単純化して図に表す活動を取り入れることが考えられる。例えば、本設問を用いて、実際に掲示物が隠れない位置を探す場面を設定し、観測者の視線と掲示物の位置関係を考察することで、観測者の視線を直線で表現するとよいことを捉えられるようにすることが考えられる。

構想を立てて証明し、証明を振り返って考える

設問 4 下の図のように、 $AB = AC$ の二等辺三角形 $ABC$ の辺 $BC$ 上に  $BD = CE$ となる点 $D$ 、点 $E$ をそれぞれとります。



次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1)  $AD = AE$ となることを証明しなさい。

(2)  $\angle BAC = 110^\circ$ 、 $BD = AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求めなさい。

<解説資料から>

証明を書くことができるようにするために、結論を導くために何がわかればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見出したりすることで証明の方針を立てる活動を取り入れることが考えられる。(H26 数学A⑧)

また、設問(2)のように、与えられた問題に条件を付加することで、発展的に考える機会を設けることが考えられる。その際、証明を振り返り、証明の過程で見出した事柄や証明された事柄に着目し、新たな性質を見出すことができるかどうかを考える場面を設定することが考えられる。

証明の構想を立てる

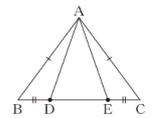
ADとAEをそれぞれ1辺とする2つの三角形に着目すると、次のような証明の方針を立てることができます。下の①、②に当てはまる三角形を書きなさい。

証明の方針

①  $AD = AE$ を証明するためには、① = ②を示せばよい。

② ①と②の辺や角について、等しいといえるものを探せばよい。まず、仮定から、 $AB = AC$ 、 $BD = CE$ がいえる。

③ ③を使うと、①の① = ②が示せそうだ。



証明の方針を立てて証明する。(A問題⑧)

(1)で証明した  $\triangle ABD \cong \triangle ACE$ を使う

## 質問紙調査から

今年度の児童・生徒質問紙の質問項目には、新たな内容が盛り込まれています。

### <今年度、新たに付け加わった項目>

番号	質問項目
(26)	学校生活で友達関係など何か悩みを抱えたら、誰に相談することが多いですか。
(27)	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
(28)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う
(48)	学級の友達との間で（生徒の間で）話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。

### <昨年度から新たに付け加わった項目>

※昨年度は「きめ細かい調査」として、学校ごとに質問紙Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに分かれて実施されています。

番号	質問項目	昨年度
(8)	友達に伝えたいことをうまく伝えることができる。	Ⅲ
(9)	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。	Ⅲ
(13)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます)	Ⅰ
(20)	家の人(兄弟姉妹は含みません)は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか。	Ⅰ
(32)	新聞を読んでいますか。	Ⅱ
(33)	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含みます。)	Ⅱ
(40)	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	Ⅲ
(44)	授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う。	Ⅲ
(45)	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。	Ⅲ
(49)	授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。	Ⅲ